

## アイ・ハヌム遺跡

### 《アフガニスタン流出文化財 ゼウス神像 左足》 《ゼウス神像 想定復元》

紀元前3世紀頃のものとする《ゼウス神像左足》は、アイ・ハヌム遺跡の中心部に位置する神殿址で発見されました。《ゼウス神像（想定復元）》は、《ゼウス神像左足》をもとに、近接した時代の類似作例と思われる彫刻等を参照し、像の失われた部分を想定復元によって甦らせた試みです。

《ゼウス神像左足》が履いているサンダルの帯に刻まれた雷<sup>らいてい</sup>電（稲妻文）がゼウス神を象徴する武器であること、また、発見された神殿址に残された礎石と祭壇の跡から推測される神殿の建築様式もゼウス神を祀る神殿の類例と合致するものであったことから、ゼウス神を表した彫刻の断片であるとわかります。

発見された《ゼウス神像左足》の大きさから、足全体の大きさが約50cm、直立姿勢での全長は約6mにも達する巨大な像であったと推定されます。

ベルリンの新博物館に所蔵されている紀元前2世紀頃のゼウス神像が《ゼウス神像左足》と制作年代が近く、その衣の襞<sup>ひだ</sup>の作り込みや身体の量感のダイナミックな表現を参照し、アテネ国立考古学博物館所蔵の紀元前3世紀以前のものとするゼウス神像は、海から引き上げられたものであり細部の表現は失われていましたが、像の姿勢など彫刻全体の構成を想定する上で参考としました。



ベルリン・新博物館のゼウス神像



アテネ国立考古博物館のゼウス神像